

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

フィリピン、移民送金に頭打ちの兆し(Asia Weekly (4/16~4/20))

~NZでは、タバコ増税や復旧・復興を背景に物価上昇圧力が高まる~

発表日:2012年4月23日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

| 発表日 | 指標、イベントなど | 結果 | コンセンサス | 前回 |
|----------|----------------------------|--------|--------|---------|
| 4/16 (月) | (フィリピン) 2月海外送金 (前年比) | +5.8% | -- | +5.4% |
| 4/17 (火) | (シンガポール) 3月非石油輸出 (前年比) | ▲4.3% | +7.1% | +30.4% |
| | (インド) 金融政策委員会 (レポ金利) | 8.00% | 8.25% | 8.50% |
| | (リバースレポ金利) | 7.00% | 7.25% | 7.50% |
| | (現金準備率) | 4.75% | 4.75% | 4.75% |
| 4/19 (木) | (ニュージーランド) 1-3月消費者物価 (前年比) | +1.6% | +1.6% | +1.8% |
| | (フィリピン) 金融政策委員会 (政策金利) | 4.00% | 4.00% | 4.00% |
| | (香港) 3月失業率 (季調済) | 3.4% | 3.5% | 3.4% |
| 4/20 (金) | (台湾) 3月輸出受注 (前年比) | ▲1.58% | ▲3.91% | +17.60% |
| | (マレーシア) 3月消費者物価 (前年比) | +2.1% | +2.1% | +2.2% |

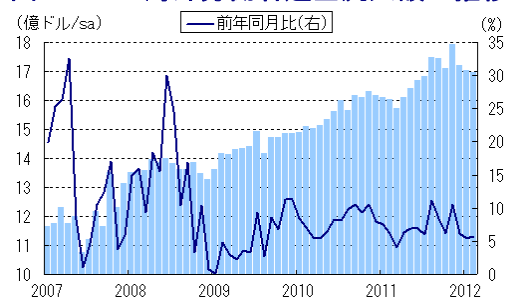
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【フィリピン】 ~送金頭打ちによる影響は懸念されるが、当局は利下げの終了を示唆している~

16日に発表された2月の海外労働者送金流入額は前年同月比+5.8%となり、前月(同+5.4%)から加速したが、当研究所が試算した季節調整値ベースの前月比は減少している。昨年後半は金融市場の混乱により通貨ペソ安圧力が高まったが、年明け以降の市場の落ち着きとともにペソ建の流入額は伸び悩んでいる。GDPの約1割に達する労働者送金は個人消費を下支えしており、この目減りは内需の下押しに繋がると予想される。

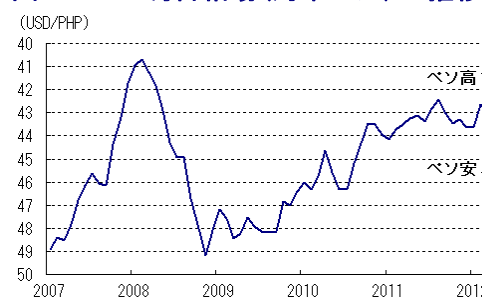
19日、フィリピン中央銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利である翌日物借入金利及び翌日物貸付金利を3回ぶりにそれぞれ4.00%、6.00%に据え置く決定を行った。3月の消費者物価上昇率は前年同月比+2.64%と31ヶ月ぶりの水準に低下しており、食料品価格の落ち着きを背景に物価上昇圧力も後退している。原油高や海外資金の流入などによるインフレ率の上昇リスクはあるものの、足下で通貨ペソは緩やかに上昇しており、輸入物価の上昇を抑えると見込まれる。なお、当局は今回の金利据え置きについて、過去2回の利下げ(計50bp)の効果を見極めるとしており、利下げ局面が終了を迎える可能性もあろう。

図1 PH 海外労働者送金流入額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 PH 為替相場(対米ドル)の推移

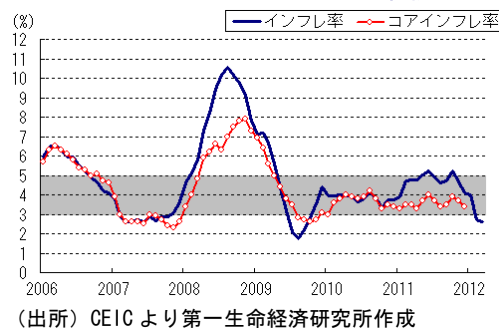


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 PH 政策金利(翌日物借入金利)の推移



図4 PH インフレ率の推移



[マレーシア] ～必需品価格は安定しており、景気減速を反映して物価上昇圧力は後退している～

20日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月(同+2.2%)から減速した。前月比も+0.0%と前月から2ヶ月連続横這いで推移しており、食料品価格は安定し、景気減速を背景にサービス物価も減速するなど物価上昇圧力は後退している。金融当局は先月の金融政策委員会において、政策金利を5回連続で3.00%に据え置く決定を行っている。海外経済の不透明感が残るものの、内需をけん引役に緩やかな景気拡大が続くとみていることから、しばらく金利を現行水準で据え置く見込まれる。

図5 MY インフレ率の推移

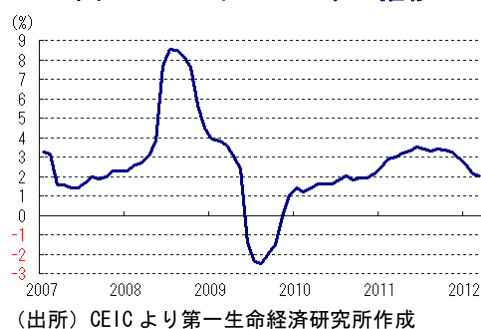


図6 MY 政策金利の推移



[ニュージーランド] ～タバコ税増税に加えて、復旧・復興の本格化に伴い物価上昇圧力は煽っている～

19日に発表された1-3月の消費者物価は前年同月比+1.6%となり、前期(同+1.8%)から減速した。前期比は+0.5%と前期(同▲0.3%)から上昇に転じており、1月からタバコ税の税率が引き上げられたほか、足下の食料品やエネルギー価格の上昇も物価を押し上げた。なお、コア物価は前年同期比+1.5%と前期(同+1.2%)から加速しており、前期比も+0.45%と前期(同+0.18%)から加速。昨年の地震からの復旧・復興需要が本格化していることを反映して、住宅価格は堅調であるなど物価上昇圧力は煽っている。26日には定例の金融政策委員会が予定されており、当局は先月に続いて政策金利を据え置く予想する(据え置きは9回連続)。

図7 NZ インフレ率の推移

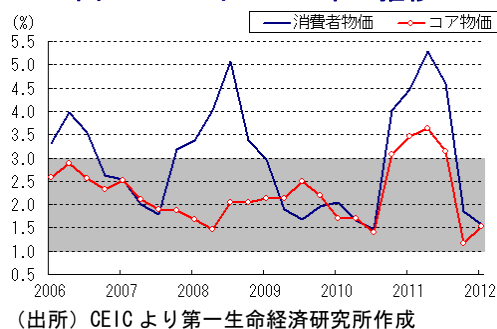


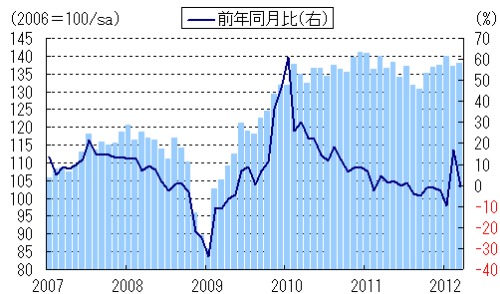
図8 NZ 政策金利の推移



【台湾】 ～減速が続いてきた中国向けに底打ちの兆候が出ており、輸出受注はわずかに増加～

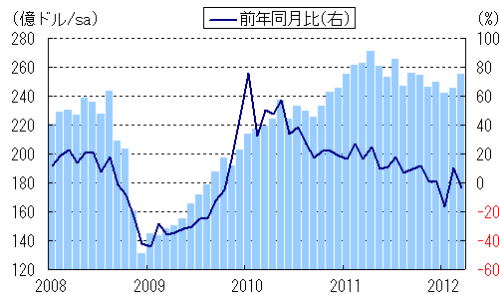
20日に発表された3月の輸出受注は前年同月比▲1.58%となり、2ヶ月ぶりに前年割れとなった。一方で前月比は増加に転じており、中国向けに底打ちの兆しが出ているほか、欧米向けなどの堅調も受注を下支えしている。3月の輸出額は前年同月比▲3.2%と前年割れしたものの、前月比はわずかに増加しており、先行きも緩やかな増加が期待されよう。

図9 TW 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 TW 輸出額の推移

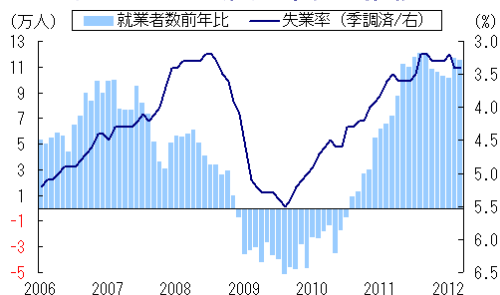


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】 ～中国本土からの来訪者数の堅調を背景にサービス部門は雇用を下支えしている～

19日に発表された3月の失業率(季調済)は3.4%となり、前月と同じであった。中国本土からの観光客は堅調に推移しており、サービス部門を中心に雇用は底堅い。金融市場の落ち着きを背景に雇用を取り巻く環境は改善しつつあり、一部で雇用拡大の動きはみられるものの、昨年末以降金融部門を中心にレイオフの動きが進んでいることから、先行きは雇用環境の厳しさが増すと予想される。

図11 HK 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 HK 来訪者数の推移

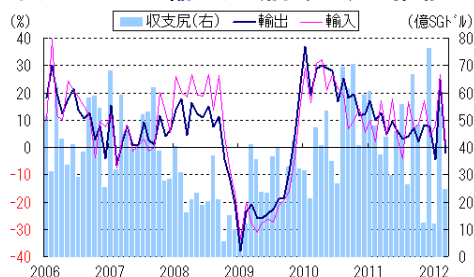


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【シンガポール】 ～春節がずれ込んだ影響により輸出は減少。一方で輸入は底堅く推移している～

17日に発表された3月の非石油輸出額は前年同月比▲4.3%となり、5ヶ月ぶりに前年割れとなった。前月比も減少しており、今年は中国の春節が1月にずれ込んだことで前月に大きく増加したことも影響した。なお、総輸出額も前年同月比▲2.2%と2ヶ月ぶりに前年割れとなり、前月比も▲7.7%減少している。一方の輸入額は前年同月比+0.6%となり、前月(同+26.5%)から減速したものの、前月比は+4.1%と増加している。結果、貿易収支は+24.48億SGドルと前月(+54.75億SGドル)から黒字幅が縮小した。

図13 SG 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上